# ProcureMART<sup>тм</sup> RosettaNet HTTPClient

インストールマニュアル

# *V1.3.2*

(Windows XP の例)

# 目次

1.	ProcureMART <sup>™</sup> RosettaNet HTTPClientの構成の構成	2
2.	準備	3
3.	ProcureMART <sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient 解凍	4
4.	Java JRE のセットアップ	
	(Java Runtime Environment - Standard Edition)	5
5.	Log4j のセットアップ	10
6.	ProcureMART <sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient のインストール	12
7.	コピーしたライブラリの確認	15
8.	コンフィグレーションファイルの編集	17
9.	log4j プロパティーファイルの編集	19
10.	. インストールのチェック	20
11.	. 付録 A: 図のリスト	24
12.	. 付録 B: ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient セットアップ情報	25

# 1. ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient の構成

ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient を使用するためには、いくつかの JAVA のライブラリが必要です。ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient で必要な構造は図1のようになっています。本マニュアルでは、各ライブラリのインストール方法から段階的に説明します。ただし、OS(Windows XP 等)のインストールが実施済であることが条件です。



図 1 ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient システム構成図

# 2. 準備

必要なもの

ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient をインストールするためには、以下のものが必要です。

- ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClientの配布物 (RNHTTPClient\_V. 1. 3. 2. zip)
   ※RNHTTPClient\_V. 1. 3. 2. zip は
   URL: <u>http://www.procuremart.net/httpclient/httpclient.html</u>
   より入手可能です。
- Log4j (jakarta-log4j-1.1.3.zip)
   ※log4j は URL: <u>http://archive.apache.org/dist/logging/log4j/1.1.3/</u>より入手可能です。

インストール開始前に、付録Bにある必要な情報を書き込んで下さい。

# 3. ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient 解凍

ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient は、Zip 形式で配布されますので、まず最初に配布物を 解凍します。解凍後作成されたファイルはシステムのどこにでも配置でき、そのファイルサイズ は約17MB 程度になります。

上記で解凍し作成されたフォルダを、本マニュアルでは〈ExtractedDirectory〉と呼びます。



ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻)	お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)	
🕝 RG - 🕥 - 🏂 🌶	🏽 検索 👘 フォルダ 🛄 🕶 🥵 フォルダー同期	
	名前 ▲	種類
ファイルとフォルタのタスク 🙁	RNHTTPClient_V.1.3.2	ファイル フォルダ
💋 新しいフォルダを作成す る	jre−6u31-windows−i586-s.exe	アプリケーション
🔊 このフォルダを Web に公		
🛃 このフォルタを共有する		
<del>そ</del> の他 📀		
123 デスクトップ		
P		
→ 共有ドキュシント		
S ALTOCI -X		>
2 個のオブジェクト	16.4 MB 🛛 😼 국가 :	コンピューター

図 2 〈ExtractedDirectory〉の中のフォルダ

## 4. Java JRE のセットアップ

### (Java <u>Runtime</u> <u>Environment</u> - Standard Edition)

既に、インストールするマシンに、JRE1.5以上の環境が存在する場合、本作業は必要ありません。しかし、ほとんどのWindowsマシンは、JAVAの環境を持たないので、この作業をする必要があります。尚、本マニュアルではJRE1.6のインストール例を記載致します。

JRE は、配布物から解凍した下記フォルダにあります。

🗁 新しいフォルダ	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)	
( 戻る 🔹 🌍 ど 🏂 🔎 検索 🎼 フォルダ 🛄 🔹 🥵 フォルダー同期	
▲ 名前 ▲	種類
ファイルとフォルダのタスク             ごのファイルの名前を変         更する         このファイルを移動する         このファイルを記じーする         ふ このファイルを世に公         開する         このファイルを電子メー         ルで送信する         、このファイルを削除する         、このファイルを削除する	ファイル フォルダ アプリケーション
その他 🙁	
(2) デスカトップ ✓ く	>
説明: Java(TM) Platform SE binary 会社名: Sun Microsystems, Inc 16.4 MB 🛛 😏 マイ コンピ	1-9-

#### <ExtractedDirectory>¥jre-6u31-windows-i586-s.exe

図 3 Java Runtime Environment セットアッププログラム

尚、配布物の JRE は 32bit 版になりますので、64bit OS(windows 2008 R2 等)を使用している場合は別途以下の URL から JRE を入手してください。

URL : <u>http://java.com/ja/download/</u>

#### 4.1 JRE のインストール

インストールフォルダは、システムのどこに置いても構いません。デフォルトは以下の場 所となります。

#### C:\Program Files\Java\jre6

しかし、スペースを間にはさむフォルダパスは、バッチスクリプトへの組み込みや、タス クマネージャ等を使用する場合トラブルの元となりますので、以下のフォルダに変更する ことをお奨めします。

#### C:¥JRE¥1.6¥

本ドキュメントでは、JRE のインストールフォルダを"〈JavaHome〉"と記述します。 インストールの手続きを、段階的に図で説明します。尚、本マニュアルでは JRE1.6 のイン ストール例を記載致します。

Java のセットアップ - ようこそ 🔀			
Java <sup>-</sup>	ORACLE		
Java(TM) へようこそ			
Java は素晴らしい Java コンテンツの世界への安全なアクセスを提供します。ビジネス に立つユーティリティーやエンターテインメントに到るまで、 Java はお客様のインターネッ ます。	マンリューションから役 ト体験を真に実現し		
注: インストールプロセスにおいて個人情報が収集されることはありません。 収集する情報の詳細については、 <mark>ここをクリックしてください。</mark>			
<mark>ライセンス契約</mark> に同意し、今すぐ Java をインストールする場合は、 「インストール」をクリックしてください。			
▼ インストール先のフォルダを変更する  取消し	<u>インストールゆ&gt;</u>		

図 4 Software license の契約文

JRE のライセンス契約文を確認し、インストールを開始するならば「インストール」をク リックして下さい。インストールフォルダを変更する場合は「インストール先のフォルダ を変更する」をチェックし、任意のフォルダを指定して下さい。

Java セットアップ - インストール 先フォルダ	
الله الله الله الله الله الله الله الله	ORACLE
インストール先フォルダ	
Java を別のフォルダにインストールするには、「変更」をクリックして下さい。 インストール先: C:¥JRE¥1.6	変更( <u>C</u> )
< 戻る(日	) <u>决&gt;</u>

### 図 5 インストールフォルダの選択

JRE のセットアッププログラムは、以下のフォルダをデフォルトとします。

### C:\Program Files\Java\jre6

トラブル防止のため、パスの中のスペースは避け、以下のフォルダに変更します。

#### C:¥JRE¥1.6

「変更」を押して、インストール先のフォルダを変更し、「次 >」を選択します。

Java セットアップ - 完了	
java-	ORACLE
✓ Java のインストールに成功しました。	
最新機能や改善されたセキュリティーを提供するために、Java の更新版が自動的に れます。 これを変更する場合は次をご覧下さい: http://java.com/autoupda	ダウンロードさ te
	<u>(開ける(C)</u>

図 6 インストール完了

以上で JRE のインストールは完了になります。

4.2 重要ファイル



図 7 JRE インストールフォルダ (<JavaHome>)

図7はJREインストール後のフォルダです。これらは、重要なファイルとフォルダです。 その中でも以下の二つは、最も重要なファイルです。

### <JavaHome>¥bin¥java.exe

これは java virtual machine です。ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient はコマンドで 起動します。

<JavaHome>¥bin¥java RNHTTPClient [options…]

### <JavaHome>¥lib¥ext¥

これは JAVA ライブラリが格納されるフォルダです。インストールのあとに\*. jar ファイルがこ こにコピーされます。

Copyright© Fujitsu Limited, All rights reserved. 2012

## 5. Log4j のセットアップ

### 5.1 パッケージの解凍

下記のURLより「jakarta-log4j-1.1.3.zip」をダウンロードします。

URL : <u>http://archive.apache.org/dist/logging/log4j/1.1.3/</u>

Log4jはZip形式で配布されています。最初にLog4jを解凍してください。 解凍はどんなフォルダにも出来ます。そのフォルダはインストール後には必要が無くなり ますので、削除しても構いません。



図 8 Log4j フォルダ

### 5.2 ライブラリのインストール

Log4j ライブラリは<jakarta-log4j-1.1.3>¥dist¥lib¥にあります。(図 9)

これら2ファイルを以下にコピーして下さい。

### <JavaHome>¥lib¥ext



図 9 〈jakarta-log4j-1.1.3〉¥dist¥lib¥の中のLog4j

# 6. ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient のインストール

ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient は<ExtractedDirectory>¥RNHTTPClient\_V.1.3.2 にあります。この RNHTTPClient\_V.1.3.2 フォルダー全体をインストールする フォルダへコピーしてください。

### 例)

#### C:\FRNHTTPC1ient\_V. 1. 3. 2

このフォルダを、本ドキュメントでは〈BASEDIR〉と呼ぶ事にします。

ログファイル、EDI データファイル、そして EDI データバックアップファイルは <BASEIDIR>の中に作成されます。したがって、インストールフォルダは十分な ディスク容量が必須です。

ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient にて複数のログイン ID を扱う場合には、各 ID に 対応した ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient を異なったフォルダにインストールす る必要があります。



図 10 RNHTTPClient\_V. 1. 3. 2 <BASEDIR>

問題なくコピーされた後のフォルダは図10のようになります。

6.1 ライブラリのインストール

最後に、<BASEDIR>¥lib 配下にある jar ファイルを、他のライブラリのように <**JavaHome>¥ext¥lib** にコピーして下さい。

😂 lib				
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り	)(A) ツール(T) ヘルプ(H)			At 1
😋 戻る 🔹 🕥 🛛 🏂 🔎 検索	🔁 วォルダ 🏢 🖌 🥵 วォルダー同期			
アドレス(D) 🛅 C¥RNHTTPClient_V.1.3¥lib				💙 芝 移動
フォルダ	× 名前	サイズ 種	重 <u>类</u> 頁	更新日時 👻
RNHTTPClient_V.1.3 bin dtd etc los rom rov rovback recvtile RNTD Sendattach sendfile SndAttachBack SndAttachBack SndAttachBack SndAttachBack SndAttachBack SndAttachBack	MimePackaging.jar ARHTTPClient.jar PmartCL.jar procure-commons.jar commons-beauutils.jar commons-logging-api.jar commons-logging-api.jar commons-logging-api.jar commons-logging-api.jar commons-logging.jar co	33 KB E 9 KB E 65 KB E 14 KB E 263 KB E 116 KB E 107 KB E 18 KB E 26 KB E 26 KB E 201 KB E 201 KB E 275 KB E 45 KB E	xecutable Jar File xecutable Jar File	2005/09/28 1654 2005/08/22 11:19 2005/06/18 17:22 2004/12/14 20:36 2003/07/04 11:30 2003/07/04 11:30 2003/07/04 11:30 2003/07/03 17:14 2003/01/08 0:00 2003/01/08 0:00 2003/01/08 0:00 2002/07/17 0:00 2002/07/17 0:00 2002/07/17 0:00
in Sndwork				
4 個のオブジェクト (空きディスク領域: 5.25 GB)		1.44	MB 😼 マイニ	レピューター

図 11 <BASEDIR>¥lib の中の ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient ライブラ リファイル

# 7. コピーしたライブラリの確認

この時点でライブラリのセットアップは終っています。**〈JavaHome〉¥lib¥ext¥**にはコピーした 16 個の Jar ファイルがあるはずですので、エクスプローラーですべてのファイルがあるかチェックして下さい。図 12 はエクスプローラーで見た**〈JavaHome〉¥lib¥ext**フォルダを表示しています。

🈂 ext				
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り	(A) ツール(T) ヘルプ(H)			<b></b>
🌀 戻る 🔹 🌍 🛛 🏂 🔎 検索 🖡	🄁 フォルダ 🏢 🛛 Sst フォルダー同期			
ドレス(D) 🚞 C:¥JRE¥1.6¥lib¥ext				🖌 🄁 移動
フォルダ	× 名前	サイズ	種類	更新日時 🔻
🖃 🚞 JRE	🔼 📓 localedata.jar	816 KB	Executable Jar File	2012/03/06 16:51
🖃 🧰 1.6	sunpkcs11.jar	227 KB	Executable Jar File	2012/03/06 16:51
🖃 🫅 bin	📓 sunmscapi.jar	35 KB	Executable Jar File	2012/03/06 16:51
🛅 client	📓 sunjce_provider.jar	167 KB	Executable Jar File	2012/03/06 16:51
🛅 plugin2	🗾 🖬 meta-index	1 KB	ファイル	2012/03/06 16:51
🖃 🧰 lib	dnsns iar	9 KB	Executable Jar File	2012/03/06 16:51
🛅 applet	📓 MimePackaging.jar	33 KB	Executable Jar File	2005/09/28 16:54
🛅 audio	RNHTTPClient.jar	9 KB	Executable Jar File	2005/08/22 11:19
Cmm	PmartCL.jar	65 KB	Executable Jar File	2005/06/18 17:22
🗉 🧰 deploy	procure-commons.jar	14 KB	Executable Jar File	2004/12/14 20:36
iext	📓 commons-jxpath-1.1.jar	263 KB	Executable Jar File	2003/07/04 11:30
in fonts	📓 commons-beanutils.jar	116 KB	Executable Jar File	2003/07/04 11:30
👝 i386	📓 commons-digester.jar	107 KB	Executable Jar File	2003/07/03 17:14
🛅 im	📓 commons-logging-api.jar	18 KB	Executable Jar File	2003/01/08 0:00
🖃 🦳 images	commons-logging.jar	26 KB	Executable Jar File	2003/01/08 0:00
Cursors	commons-collections.jar	162 KB	Executable Jar File	2003/01/08 0:00
anagement	🖾 crimson.jar	201 KB	Executable Jar File	2002/12/19 0:00
a security	procure.jar	154 KB	Executable Jar File	2002/07/17 0:00
C servicetag	🖬 mail.jar	275 KB	Executable Jar File	2002/07/17 0:00
🖃 🦳 zi	🖬 log4j.jar	147 KB	Executable Jar File	2002/07/17 0:00
Africa	activation.jar	45 KB	Executable Jar File	2002/07/17 0:00
🕀 🦳 America	log4j-core.jar	77 KB	Executable Jar File	2001/06/19 19:22
- Antoration				
22 個のオブジェクト (空きディスク領域: 5.24 GB)		2.8	38 MB 🧕 🛃 ਵਮੱਤ	レピューター

図 12 〈JavaHome〉¥lib¥ext フォルダ

表1は、〈JavaHome〉¥lib¥extフォルダにあるはずのファイルのリストです。この表です
べてのファイルがインストールされているかどうか、チェックしてください。

Package	File name	File	Check
		$size^1(bytes)$	
Logi	log4j.jar	158, 892	
LOg4J	log4-core. jar	78, 140	
	MimePackaging.jar	32, 969	
	RNHTTPClient.jar	8, 755	
	PmartCL.jar	65, 669	
	procure-commons.jar	13, 414	
	commons-jxpath-1.1.jar	268, 794	
	commons-beanutils.jar	118, 726	
ProcureMAR1 <sup></sup>	commons-digester.jar	109, 096	
HTTPC1iont	commons-logging-api.jar	18, 404	
mirciient	commons-logging.jar	26, 388	
	commons-collections.jar	165, 119	
	crimson.jar	205, 045	
	procure. jar	157, 254	
	mail.jar	280, 984	
	activation.jar	45, 386	

表 1 <JavaHome>¥lib¥ext directoryの中のファイル

Copyright© Fujitsu Limited, All rights reserved. 2012

# 8. コンフィグレーションファイルの編集

コンフィグレーションファイルは、**〈BASEDIR〉¥etc**にあります。このファイルはサーバー名、 ユーザーID、パスワード、プロキシ設定、そして他の重要なパラメーターを指定します。 このファイルは ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient プログラムのコマンド引数として起 動時に絶対パスで指定するので、〈BASEDIR〉¥etc フォルダに格納されていれば任意のファイ ル名をつけることができます。

インストール時にサンプルコンフィグレーションファイルとして以下のファイルがありま す。

#### <BASEDIR>¥etc¥config.txt

このファイルを編集することが ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient を設定する最も簡単 な方法です。以降は、コンフィグレーションファイル名として、**〈BASEDIR〉¥etc¥config.txt** を使用します。

以下にサンプルコンフィグレーションファイルを示します(このファイルは変更無しでは動 作しません)。

# # ProcureMART RosettaNet HTTPClient Config File BASEURI=https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/ USERID=XXXXX PASSWD=XXXXX HOST=filetrans.procuremart.ne.jp PORT=443 #PROXYHOST=xxx.fujitsu.com #PROXYPORT=8080 TIMEOUT=5 RETRY=2 RETRYTIME=10 BASEDIR=C:¥¥RNHTTPClient\_V.1.3.2 DATATYPE=0 SENDFILE=C:\\RNHTTPClient\_V.1.3.2\\setsendfile SENDATTACH=C:¥¥RNHTTPClient\_V. 1. 3. 2¥¥sendattach RECVFILE=C:¥¥RNHTTPClient\_V.1.3.2¥¥recvfile RECVATTACH=C:¥¥RNHTTPClient\_V. 1.3.2¥¥recvattach

先頭に"#"がついている行はコメント行です。 レコード形式は**<Key> = <Value>**です。 **PROXYHOST** そして **PROXYPORT** 以外は必須です。直接 ProcureMART<sup>™</sup>サーバーに接続できる環境であれば、**PROXYHOST** と **PROXYPORT** を指定する必要はありません。Proxy 経由で ProcureMART<sup>™</sup>サーバと接続する環境であれば、Proxy サーバ名を **PROXYHOST** に、Proxy の ポート番号を **PROXYPORT** に設定してください。

その後、[付録 B:ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient セットアップ情報 に従って、このファイルを編集してください。

### 9. log4j プロパティーファイルの編集

Log4j プロパティーファイルは**〈BASEDIR〉¥etc** にあります。ファイル名は **〈BASEDIR〉¥etc¥PmartClient. properties** です。

このファイルは"txt"拡張子を持っていませんが、簡単なtxtファイルです。 メモ帳などのテキストエディタを用いて、表2の3行目の<BASEDIR>の箇所を編集してく ださい。(インストール時はC:¥¥RNHTTPClient\_V.1.3.2¥¥log¥¥PmartClient.logとなっ ています。)

1	log4j.rootCategory=DEBUG, R
2	log4j.appender.R=org.apache.log4j.RollingFileAppender
3	log4j.appender.R.File= <basedir>¥¥log¥¥PmartClient.log</basedir>
4	log4j. appender. R. layout=org. apache. log4j. PatternLayout
5	log4j.appender.R.layout.ConversionPattern=%d %m%n

#### 表 2 "PmartClients.properties" に選択されたアイテム

以下がレコード形式です。

<KEY> = <Value>

'#'から始まる行はコメント行です。

#### 注意:

log4j コンフィグレーションファイル中のパス区切り文字は '¥¥' (ダブルバックスラ ッシュ) にする必要があります。

インストール時の内容を以下に示します。

```
# PmartClient.properties
#log4j.rootCategory=DEBUG, stdout, R
log4j.rootCategory=DEBUG, R
#log4j.appender.stdout=org.apache.log4j.FileAppender
#log4j.appender.stdout.File=/var/log/syslog
#log4j.appender.stdout.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
#log4j.appender.stdout.layout.ConversionPattern=[%t] %-5p (%F:%L) - %m%n
log4j.appender.R=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.R.File=C:¥¥RNHTTPClient_V.1.3.2¥¥log¥¥PmartClient.log
log4j.appender.R.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.R.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.R.layout.ConversionPattern=%d %m%n
```

# 10. インストールのチェック

"コマンド プロンプト"からコマンドを入力する事によってインストールが完了してい ることをチェックします。 "コマンド プロンプト"は「スタート」→「すべてのプログ ラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」で見つかります。



図 13 スタートメニューのコマンドプロンプト

### 10.1 Java Runtime Environmentの確認

JRE のインストールされたフォルダで、以下のコマンドを入力して下さい。

### <JavaHome>¥bin¥java -version

もし、適切に JRE がインストールされたなら、このコマンドは JRE のバージョンを表示し ます。表示されたバージョンとインストールしたバージョンをチェックして下さい。 実行例は以下の様になります。

C:¥>C:¥JRE¥1.6¥bin¥java -version java version "1.6.0\_31" Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.6.0\_31-b05) Java HotSpot(TM) Client VM (build 20.6-b01, mixed mode, sharing)

### 実行例 JRE バージョンの確認

上記のように表示されない場合、以下の可能性があります。

コマンドのタイプミス

コマンドのパスが正しいか、もう一度チェックして下さい。

JRE の前バージョンと矛盾があります。

もし、JDK または JRE が既にインストールされているなら、CLASSPATH 環境変数が矛盾 しているのかも知れません。RNHTTPClient\_V.1.3.2 は CLASSPATH をセットする必要は ありませんので、以下のコマンドでチェックして下さい。

#### set CLASSPATH

以下の例は、正しい実行結果例です。

C:¥>**set CLASSPATH** Environment variable CLASSPATH not defined

#### 10.2 RosettaNet ライブラリの確認

以下のコマンドを打つと、ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient の使用方法とバージョン を表示します。

#### <JavaHome>¥bin¥java RNHTTPClient

もし、ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient が適切にインストールされると、このコマン ドは以下の様なバージョンを表示します。

C:¥>C:¥jdk1.6¥bin¥java RNHTTPClient ProcureMART RosettaNet HTTPClient version1.3.2 2006-03-31 Usage:java RNHTTPClient config snd | rcv fileid java RNHTTPClient config rcm fileid sequencce\_no

#### 実行例 ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient ライブラリの確認

もし、正しく動作しなかったら、以下を確認してください。

- a. PmartCL. jar が**くJavaHome>¥lib¥ext** に格納されているかどうか。
- b. Java コマンドが、〈JavaHome〉¥bin¥java. exe であるかどうか。
   PATH 環境変数が他の Java 環境を指定している可能性がありますので、PATH 環境変 数を修正してください。

#### 10.3 log4j ライブラリの確認

log4j ライブラリの確認として、意図的にエラーを発生させ、ログを出力させます。この 例では、存在しないファイル NEVERUSE を送信しようとして、エラーを発生させています。 エラーメッセージは log4j プロパティーファイルで指定されるログファイルに格納され ます。

<JavaHome>¥bin¥java.exe RNHTTPClient configfile snd NEVERUSE

configfile はコンフィグレーションファイルの絶対パスです。

実行例は以下のようになります。

C:¥>C:¥JRE¥1.6¥bin¥java.exe RNHTTPClient C:¥ RNHTTPClient\_V.1.3.2¥etc¥config.txt snd NEVERUSE (100002) INF0:Send File no exist

実行例 エラーサンプル

次のログファイルを確認してください。もしLog4jが適切に動いているのなら、以下の様 なメッセージが出力されています。

2001-08-13 00:35:53,409 [trc] NEVERUSE null (I00002) INFO:Send File no exist

ログをみるためには、普通にテキストエディタで見る方法のほかに、ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient で表示する方法があります。以下のコマンドでログファイルのエ ラー記録を画面に表示します。

<JavaHome>¥bin¥java LogExtract configfile trc

C:\F>C:\FJRE\1.6\formation bin\formation java LogExtract C:\FRNHTTPClient\_V.1.3.2\formation eta config.txt trc start... 2001-08-13 03:36:40,938 [trc] NEVERUSE null (I00002) INFO:Send File no exist (I00006) INFO: ProcureMART LogExtract Normal End

実行例 ログディスプレイ

# 11.付録 A: 図のリスト

义	1	ProcureMART <sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient システム構成図2
义	2	<extracteddirectory>の中のフォルダ4</extracteddirectory>
义	3	Java Runtime Environment セットアッププログラム5
义	4	Software license の契約文
义	5	インストールフォルダの選択7
义	6	インストール完了
义	7	JRE インストールフォルダ ( <javahome>)9</javahome>
义	8	Log4j フォルダ10
义	9	${\it }{\it ¥dist}lib}の中のLog4j11$
义	10	RNHTTPClient_V. 1. 3. 2 <basedir></basedir>
义	11	<basedir>¥lib の中のProcureMART™ RosettaNet HTTPClient ライ</basedir>
		ブラリファイル14
义	12	〈JavaHome〉¥lib¥ext フォルダ15
义	13	スタートメニューのコマンドプロンプト

# 12.付録 B: ProcureMART<sup>™</sup> RosettaNet HTTPClient セット

# アップ情報

	Version	Java version 1.6.0_31		
1	<javahome></javahome>	Sample	C:¥jre¥ <u>1.6</u> ¥	

12.1	Tava	Runtime	Environment
T T	Juiu	Ituni o rmo	Dirvit onmono

12.2	ProcureMART™	RosettaNet	HTTPC1ient	インストールフォルダ

2		Sample	C:¥ RNHTTPClient_V.1.3.2
	\DASEDIK/		

3	File path	Sample	<basedir>¥etc¥<anykindofname></anykindofname></basedir>
			C:¥ RNHTTPClient_V.1.3.2¥etc¥config.txt
4	BASEURI	https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/	
5	USERID		
6	PASSWD		
7	HOST	filetrans.procuremart.ne.jp	
8	PORT <sup>i</sup>	443	
9	PROXYHOST <sup> ii</sup>		
10	PROXYPORT		

12.3 コンフィグレーションファイル

11	TIMEOUT	5
12	RETRY	2
13	RETRYTIME <sup>iii</sup>	10
14	BASEDIR <sup>iv</sup> , <sup>v</sup>	C:¥¥ RNHTTPClient_V.1.3.2
15	DATATYPE <sup>vi</sup>	0

	Property file	Sample	<pre><basedir>¥etc¥PmartClient.properties</basedir></pre>	
16				
		Sample	<basedir>¥log¥PmartClient.log</basedir>	
17	Log file			

### 12.4 Log プロパティファイル

### 12.5 ファイルタイプ

Data Type	File Type(8byte fixed)
Purchase Order	

i. (443)は HTTPS のためにあり, (80)は HTTP のためにあります。

ii. ご利用のネットワークでプロキシサーバを利用している場合、その URL 設定して下さい。

iii. 再試行時間は10分以上を設定して下さい。

iv. 終わりに分離符を加えないで下さい。 余分な分離符があるならば、 RosettaNet HTTPClient はコンフィグレーションファイルを読むことができません。Windows に関しては,ファイル 分離文字は '¥'や '¥¥'です。

v. この BASEDIR は Field No.2 < BASEDIR>と同じであるべきである.

vi. (0)指定されると、データは現状通り送られます。 これはデフォルト設定です。